

モリアオガエルが近く産卵か

田んぼ近くの樹上に雌雄が……

モリアオガエルの鳴き声が5月20日すぎから、田んぼに近い御所川北岸で聞こえていました



が、6月1日、太さ3センチぐらいの灌木に登っている2匹を見つけました。高い位置の大きいのがメス、下にいるのがオスでしょう。例年、田植え前後の産卵期が近づいています。

田んぼや池の上に張り出す木の枝に、白い泡状の卵塊を産みつけるモリアオガエルは、09年6月、れんげ田んぼのクワの枝に産卵して以来、少しずつ数を増やし、去年は11塊を産みました。

とくに、田植え当日の朝、田んぼの畦際のクワの枝に最初の1塊を産み、田植えに集まった親子連れは、

その「樹上の神秘」に目を奪われました。白い塊の中で、数百匹のオタマジャクシが孵化し、下の田んぼに落ちて、カエルに育ちます。

畦際のクワの木がこの冬、園路拡幅工事のために切られました。代わりに、田んぼの隅にクワの若木3本を移植しましたが、葉の茂り具合が「産室」には不十分なようです。

去年も、その前年も、畦のヤマザクラ、ヌルデの枝や貯め池岸のアズマネザサにも産卵しました。ことしもどこかに産んでくれるだろう、と期待しています。

在来種の可能性が大

神奈川県自然保護協会幹部の多くや県立科学博物館の学芸員らは、「鎌倉のモリアオガエルは外来種である」と考えています。「鎌倉市北部の池で1960年ごろ、卵塊が観察されて以後、93年前後に長谷、極楽寺地域で発見されるまで、観察報告例がない」というのが根拠です。

しかし、私たちは広町緑地でかつて水田耕作をしていた農家や、近くに住むお年寄り、散歩を習慣にしていた住民から、その期間にもモリアオガエルの卵塊を見た、という証言を得ています。在来種である可能性が高い、と私たちは考えています。

鎌倉広町の森市民の会は年間企画「里山さんぽ」の一環として、田植えが行われる6月14日(土)に、「田植え風景と樹上の神秘を見る会」を催します。実施要領はこのホームページの「里山さんぽ」をご覧ください。

